

各エリアの電力需要について (昨冬との比較)

2023年3月1日
資源エネルギー庁

【参考】北海道エリアにおける電力需要について（昨冬との比較）

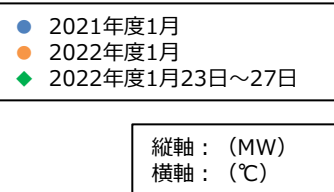
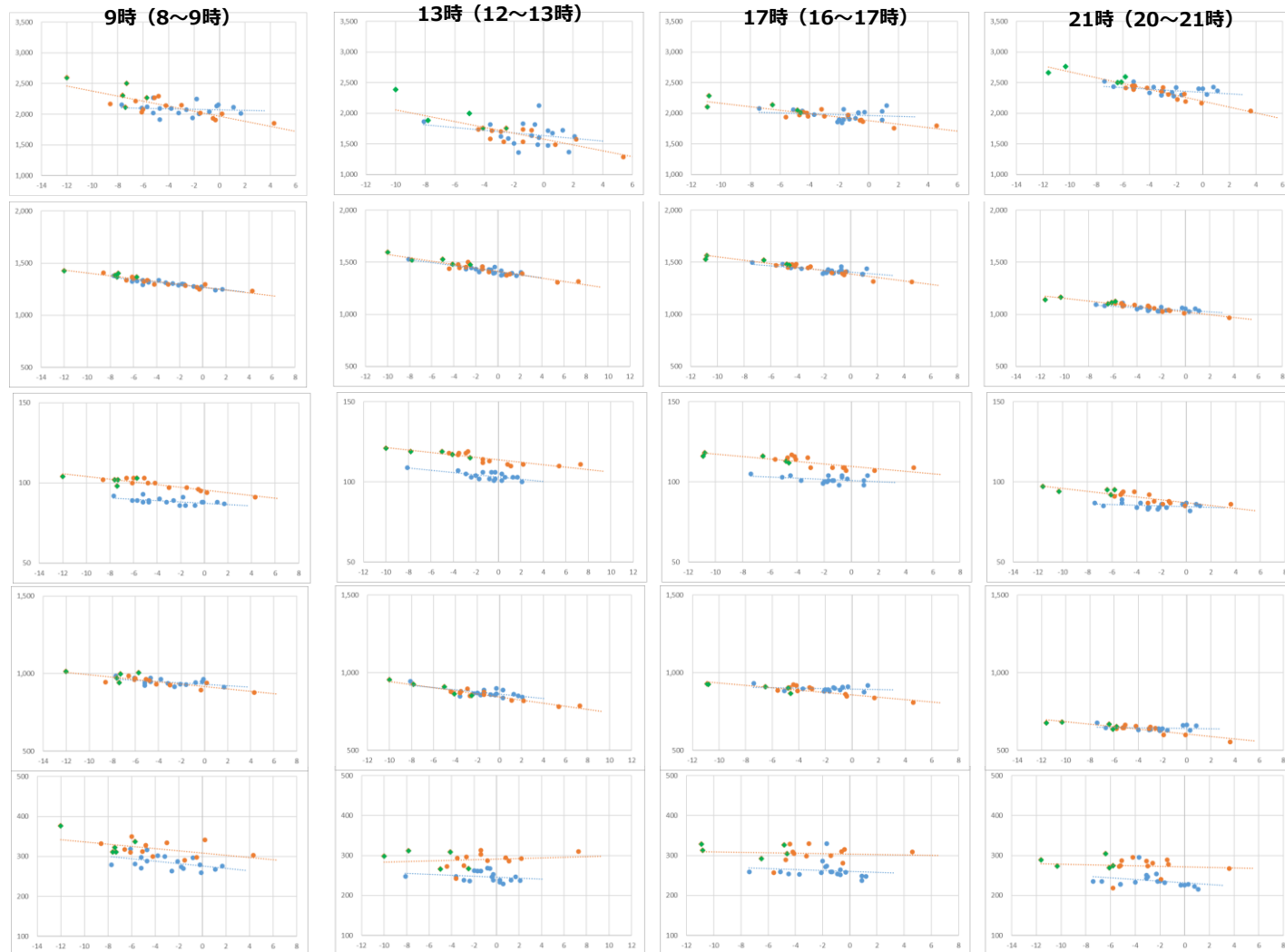
北海道電力NW作成

- 今冬1月は前年より気温が低く、気温と需要実績の相関(近似曲線の傾き)が昨冬より大きい。
- 家庭用では、マイナス2℃未満では有意な差はみられないが、マイナス2℃以上では昨冬よりも需要が減少しており、節電影響が一定程度あったものと考えている。
- 業務用高圧や産業用高圧でも同様の傾向が見られる。

家庭用

業務用（高圧）・（特高）

産業用（高圧）・（特高）

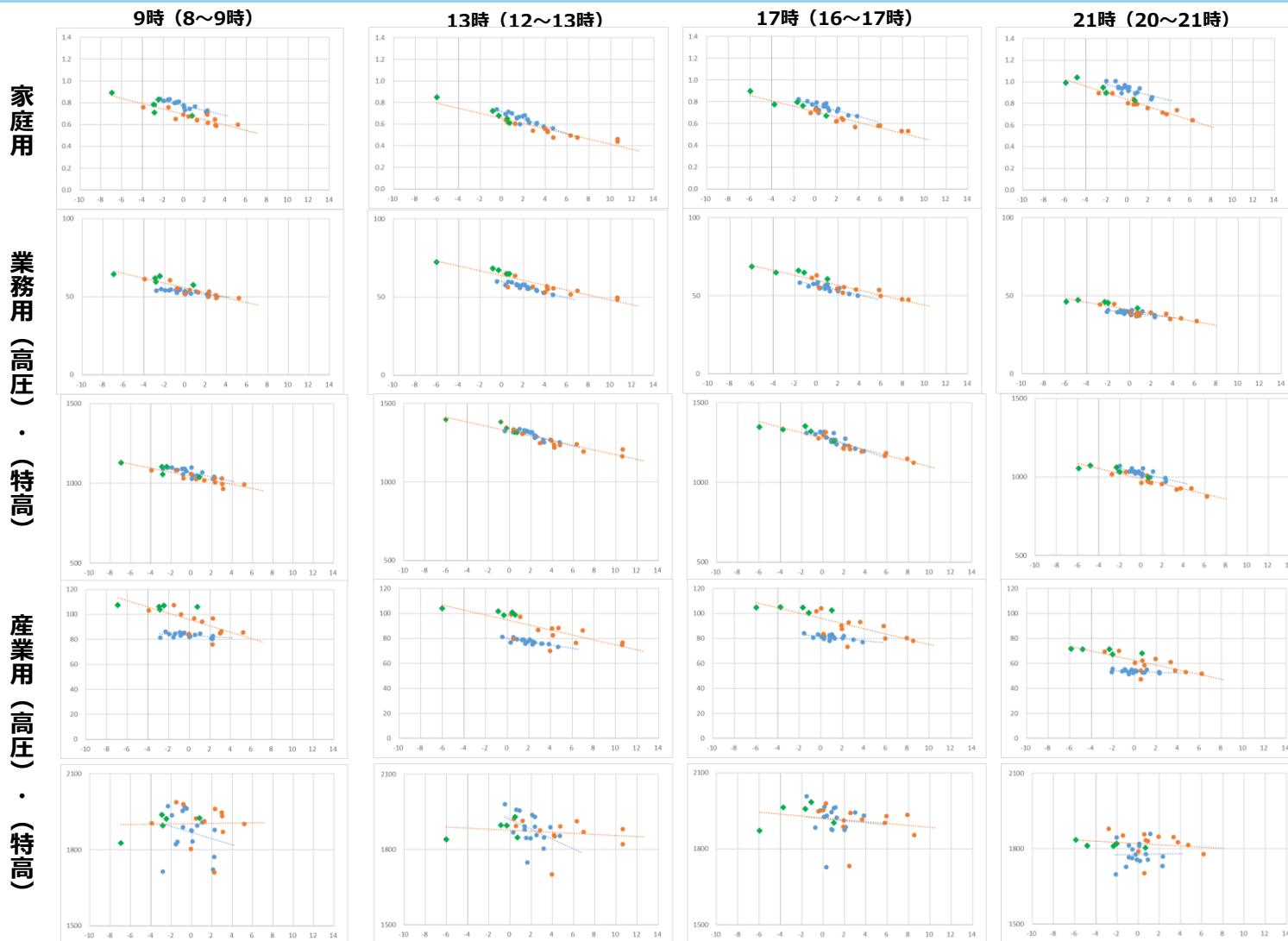


※ 電圧別にロス率を考慮し、スマートメーターの使用端データをでんき予報の送電端データに合わせるように拡大推計

【参考】東北エリアにおける電力需要について（昨冬との比較）

東北電力NW作成

- 家庭用は、昨冬と比較して今冬の需要が低い傾向にあるため、省エネ機器の普及・在宅比率の低下・節電等による需要減少が推察される。

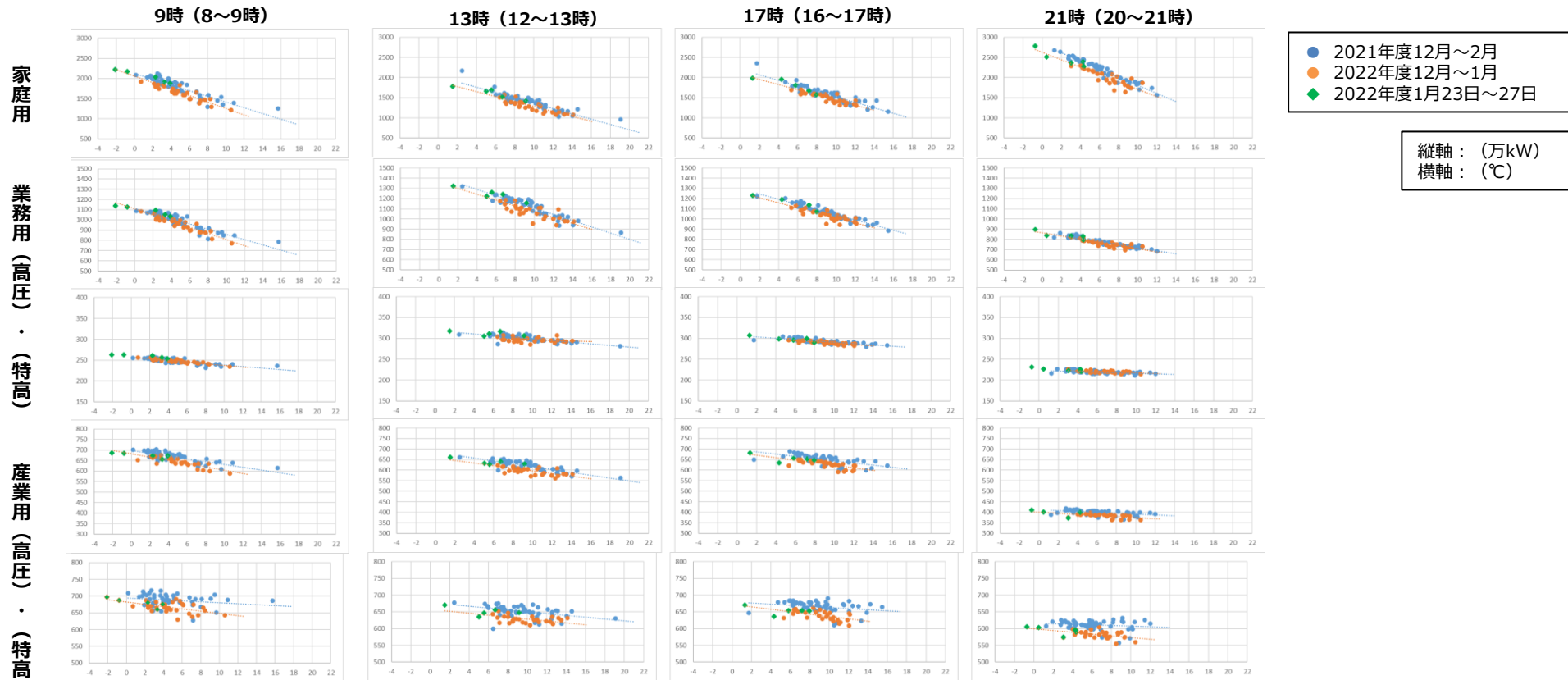


※ スマートメーターの使用端データを基に、1口当たりの需要を推計

【参考】東京エリアにおける電力需要について（昨冬との比較）

東京電力PG作成

- 家庭用の昨年からの減少要因は、昨年1月後半よりまん延防止等重点措置が発令されるなどコロナ影響による在宅需要の増加が見られたが、今冬はコロナ影響の緩和により在宅比率が下がっていること等が考えられる。
- 業務用高圧の営業時間帯にみられる減少は足元の燃料価格高騰による電気料金の上昇に伴う費用増を抑えるために節電営業を実施していることや、国からの節電要請による影響等が考えられる。
- 産業用での減少は、昨年よりも生産水準（IIP）が落ち込んでいることに加え、小売電気事業者が実施している節電プログラムの影響により、節電のインセンティブが高まっていることが等が考えられる。

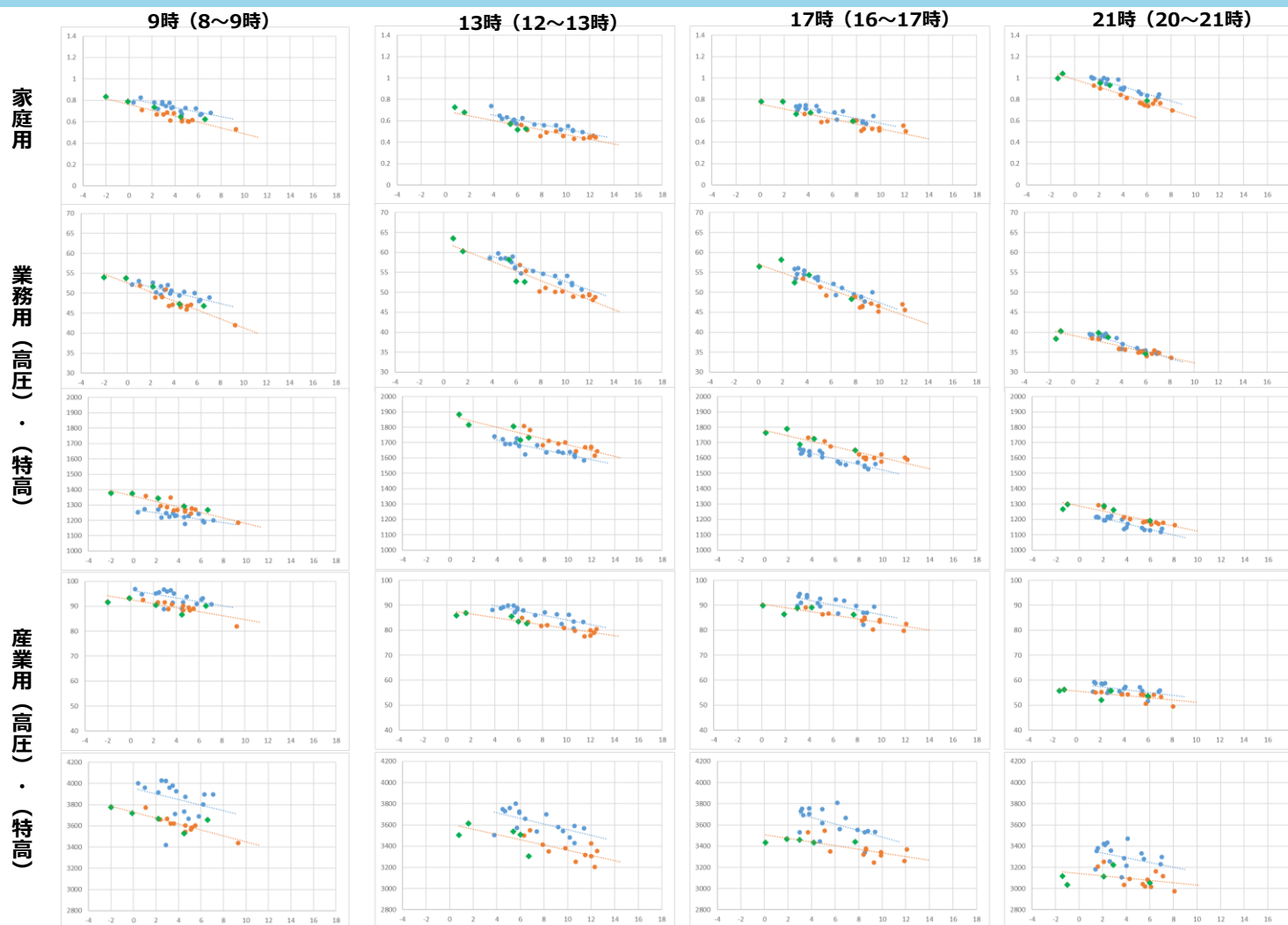


※ 電圧別にロス率を考慮し、スマートメーターの使用端データをでんき予報の送電端データに合わせるように拡大推計

【参考】中部エリアにおける電力需要について（昨冬との比較）

中部電力PG作成

- 全体を通して、今冬の方が需要が低い傾向であり、家庭用では在宅比率の減少、機器の省エネ化、節電等が要素として含まれていると推察される。
- 産業用においても需要の低下がみられるが、需要家の生産減による影響が大きいと推察される。

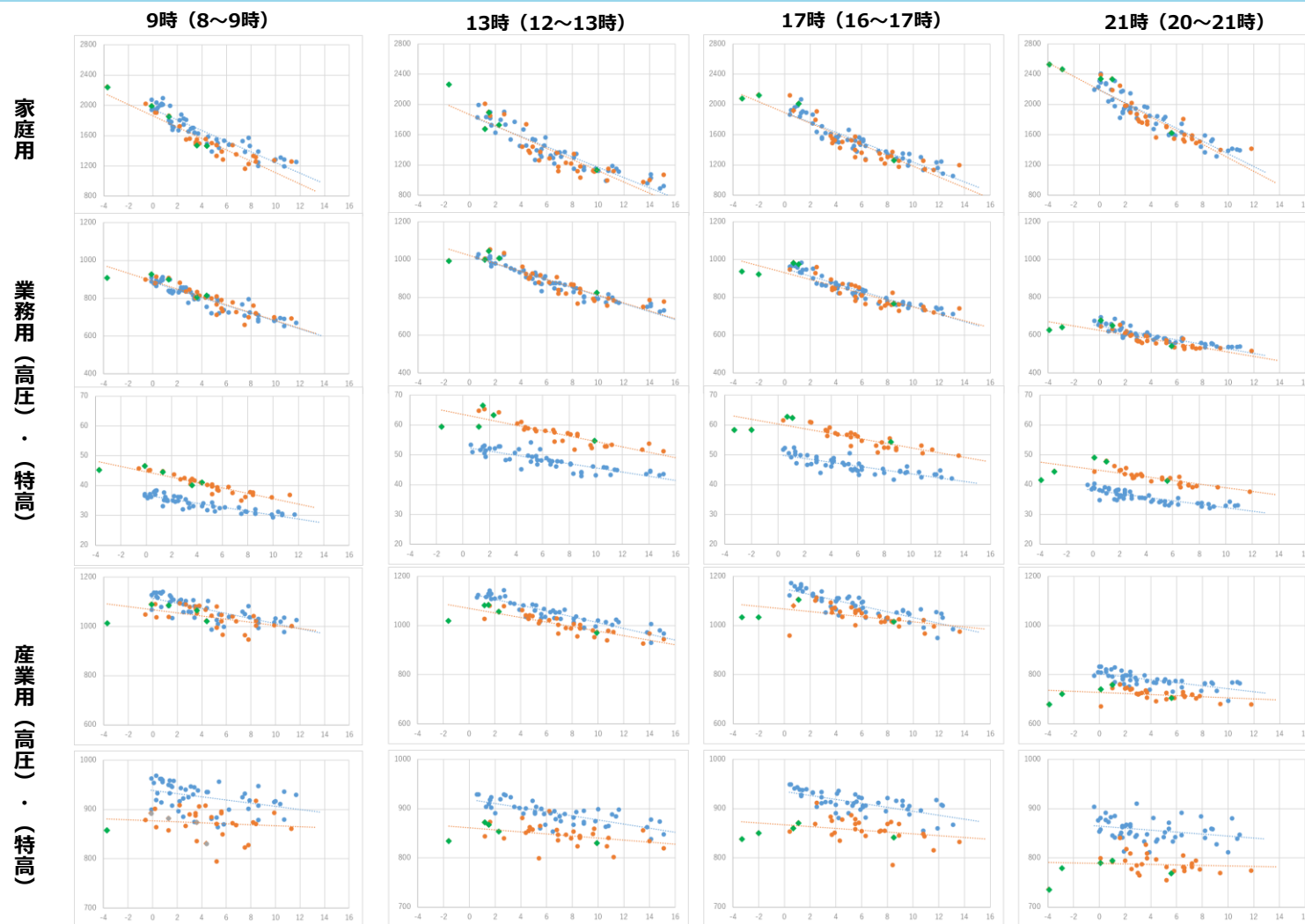


※ スマートメーターの使用端データを基に、1口当たりの需要を推計

【参考】北陸エリアにおける電力需要について（昨冬との比較）

北陸電力送配電作成

- 家庭用は一定程度節電影響と考えられる需要減があるが、昨冬の水準に比べ大きな変化はない。
- 業務用については昨冬の水準に比べ変化はなく、産業用については昨冬の水準を下回るが操業状況の違いによるものと推察される。

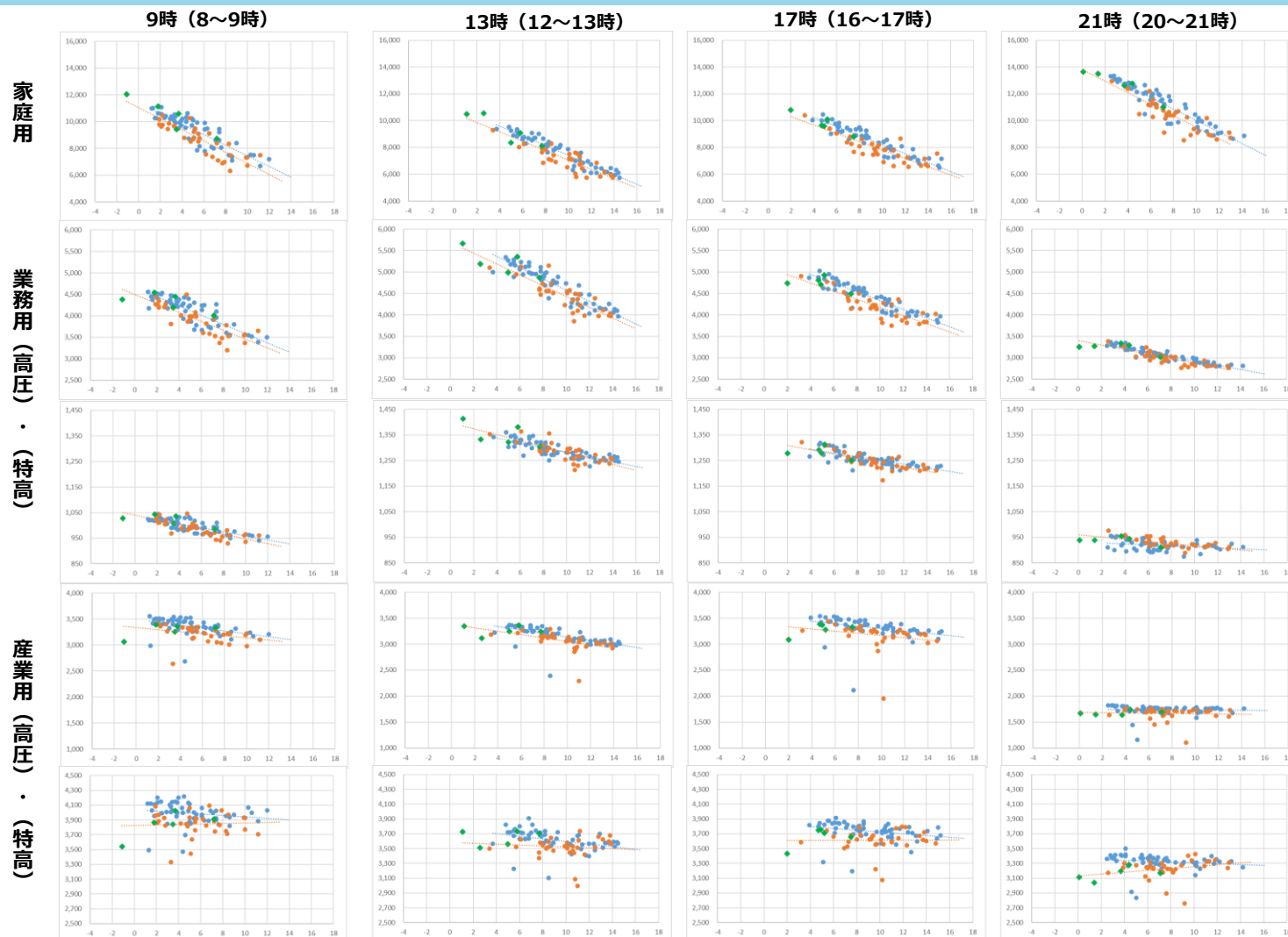


※ 電圧別にロス率を考慮し、スマートメーターの使用端データをでんき予報の送電端データに合わせるように拡大推計

【参考】関西エリアにおける電力需要について（昨冬との比較）

関西電力送配電作成

- 今冬の家庭用・業務用高圧の需要水準は、昨冬よりも低く、在宅影響の剥落や経済動向等の要因が一定程度含まれるが、節電影響も少なからず含まれていると分析している。なお、低気温帯・高気温帯で、需要減少の傾向に違いは確認できない。



● 2021年度12月~2月
● 2022年度12月~1月
◆ 2022年度1月23日~27日

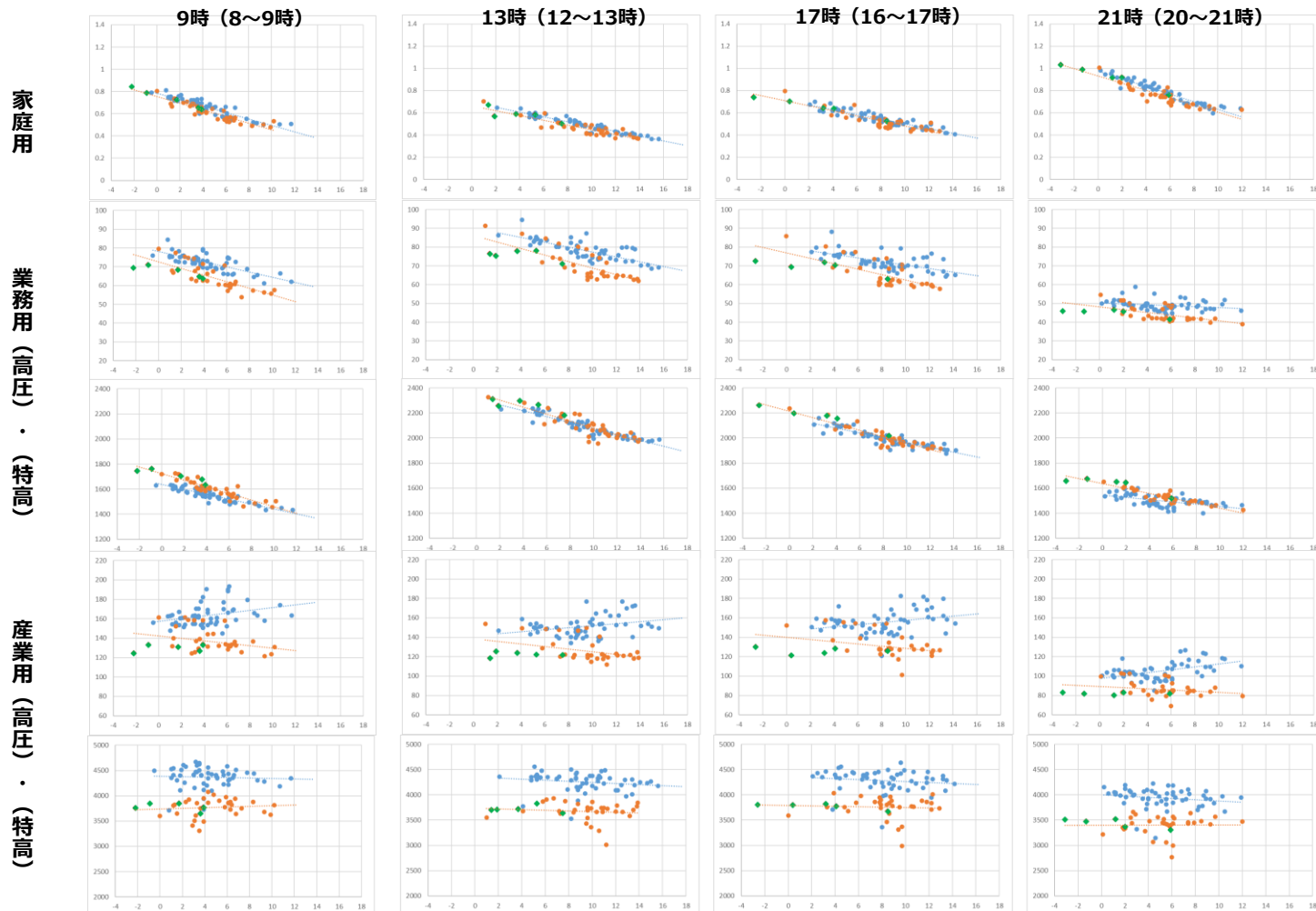
縦軸：(MW)
横軸：(°C)

※ 電圧別にロス率を考慮し、スマートメーターの使用端データをでんき予報の送電端データに合わせるように拡大推計

【参考】中国エリアにおける電力需要について（昨冬との比較）

中国電力NW作成

- 家庭用では概ねすべての温度帯で、特に在宅時間において需要の低下が見られ、一定程度節電影響があったものと考えられる。
- 業務用高圧においても、概ねすべての温度帯で需要の低下が見られる。今冬の1/23～27では他温度帯に比べ需要減が見られたが、店舗等において気温低下に伴う冷蔵庫の稼働減少や、人出減少に伴う空調需要の減少もあったと考えられる。

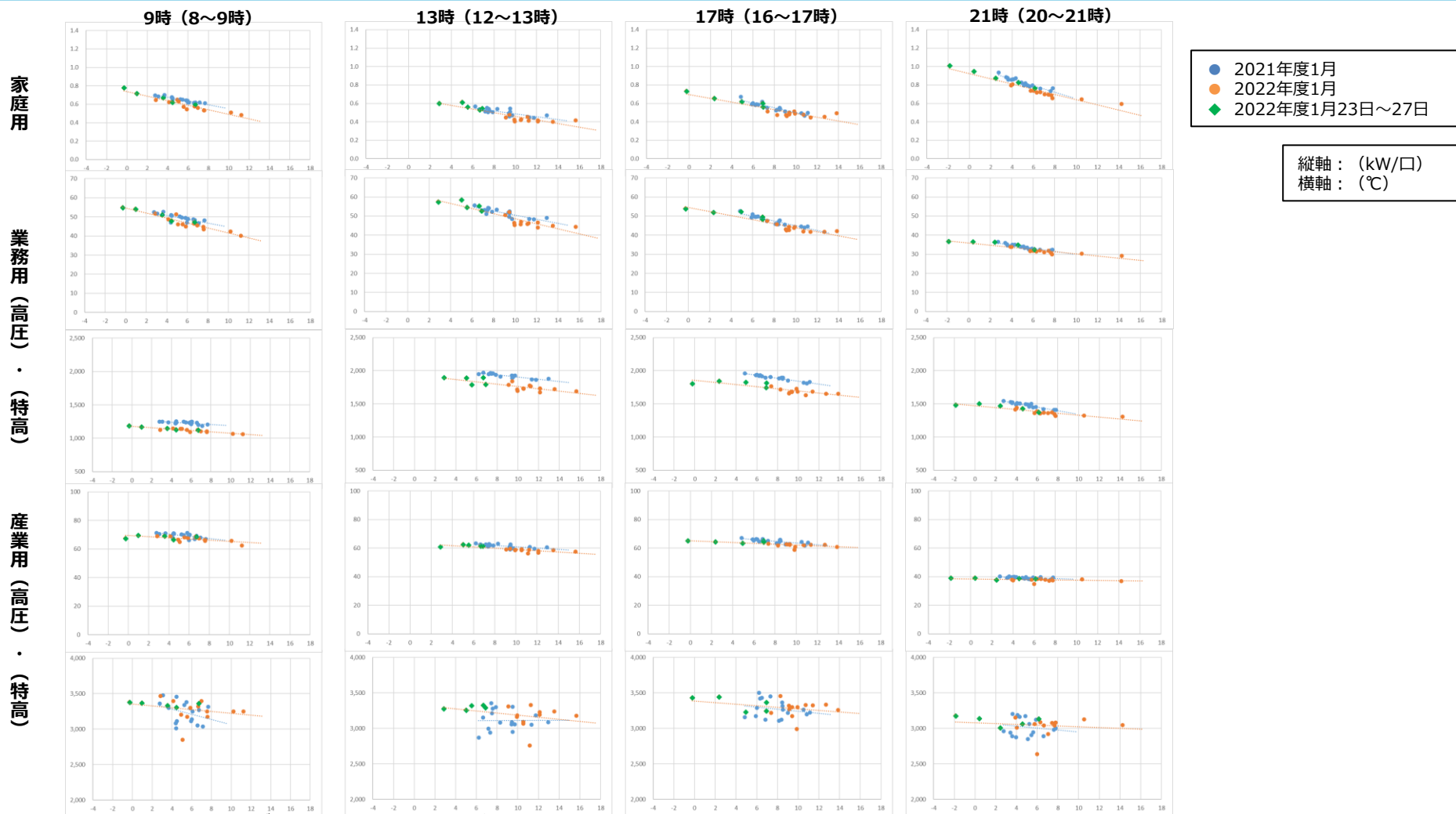


※ スマートメーターの使用端データを基に、1口当たりの需要を推計

【参考】四国エリアにおける電力需要について（昨冬との比較）

四国電力送配電作成

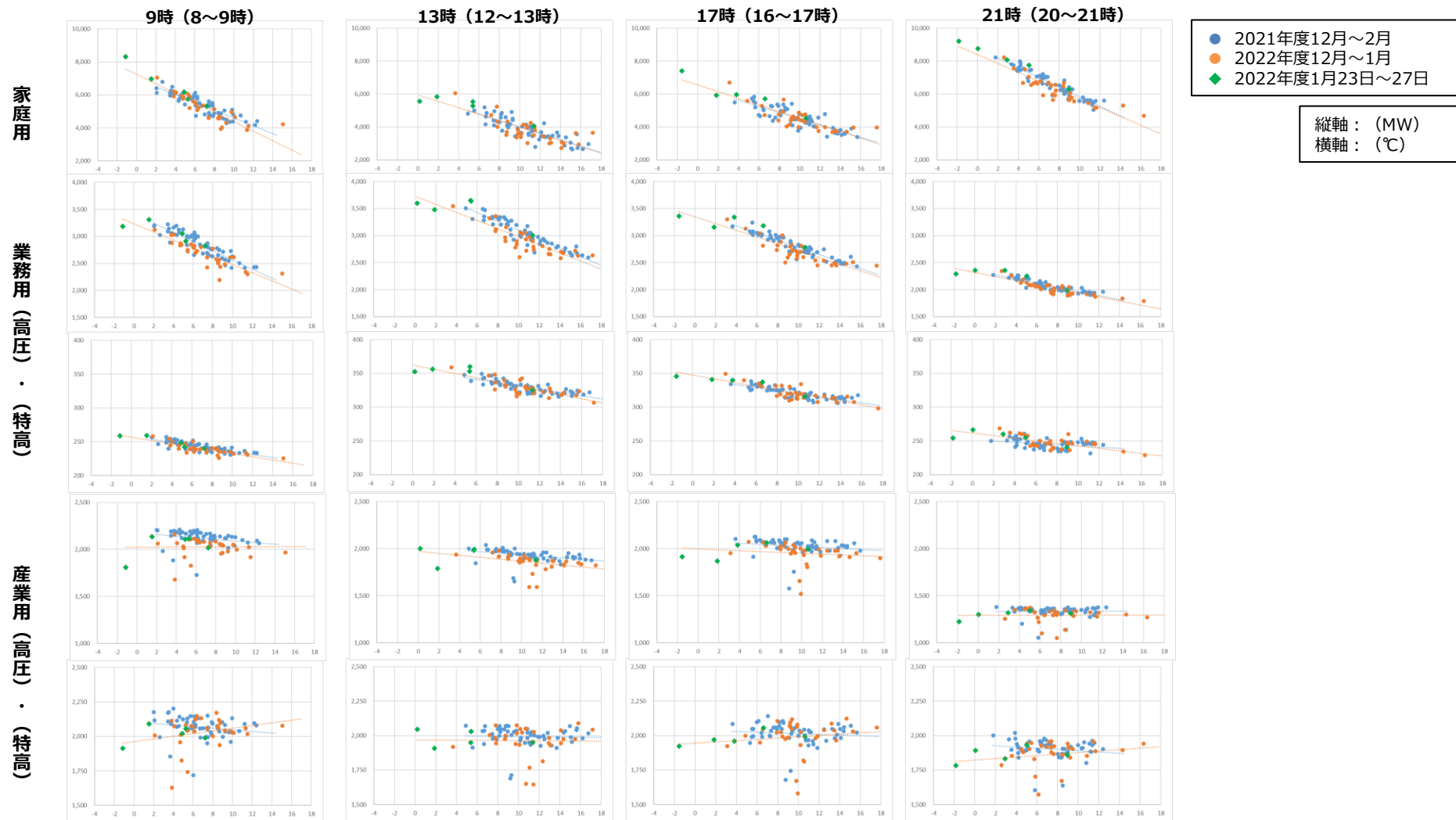
- 家庭用では昨冬と比較して今冬の需要が低い傾向にあり、節電影響等による需要減少があったのではないかと推察される。
- 業務用においても家庭用と同様の傾向が見られる。これは、特に大型ショッピングモールを中心に節電意識が高まったことによるものではないかと推察される。



【参考】九州エリアにおける電力需要について（昨冬との比較）

九州電力送配電作成

- 家庭用では、昨冬と比較し一部時間帯において需要が低く、節電影響が一定程度あったのではないかと推察される。
- 業務用では、昨冬と比較し業務時間帯（9時～17時）において需要が低く、省エネや節電等の影響があったのではないかと推察される。



※ 電圧別にロス率を考慮し、スマートメーターの使用端データをでんき予報の送電端データに合わせるように拡大推計